ビブリア

発行　いわき市平上荒川字長尾３０
　　　福島工業高等専門学校
編集　図書委員会 ビブリア編集部
　　　平成 8年 7月 19日

福島高専図書館報　第８１号

巻　頭　言

　文字の発明は、記憶の訓練をなおざりにして、人間の魂に忘れっぽい性質を植え付けると、二千年以上前にプラトンは書いている。話し言葉によるコミュニケーションの７０％以上は非言語的なものであり、それらは人間のあらゆる感覚器官を動員して行われるが、文字を読むのに利用されるのは視覚だけである。心理学者は、より多くの感覚器官を利用した方が、右脳・左脳の機能をより効果的に発揮させるので、理解・記憶効率が高いことを明らかにしている。

　人間の脳は５％程度しか使われていないという。大容量の内蔵ハードディスクを持ちながら、本とかノートという小さなフロッピーディスクを差し替えながら情報処理をしているのはいかにももったいない。詰め込み教育は良くないということで、暗記は軽視される傾向にあるが、すべてのデータは一つのハードディスクに蓄積しておくに越したことはない。大切なのはハードディスク（脳）の使い方である。暗記と独創性は対立するものではなく、暗記をやめれば自動的に創造性豊かになるものでもない。

　しかし、プラトン以来、人間は文字によって知識を蓄積してきたため、勉強とは本を読むことなりと固く信じてきた。確かに文字なしに現代文明はあり得なかったであろう。（インカ・マヤのように、文字を持たない高度文明がなかったわけではないが。）

　人間にとって成功体験を捨てることは非常に難しい。従って、文字を中心とした勉強以外は何となくいかがわしいもの、記憶術にたよる勉強は邪道とみなされている。

　それにもかかわらず、現代人の情報源は明らかに文字を離れつつある。マルチメディアとは、文字発明以前のコミュニケーションへの先祖帰りとも考えられる。文字情報が一方通行であるのに対して、マルチメディアは双方向である点も対話コミュニケーションに似ている。

　二千年来の新しい勉強方法（study skills）が考えられなくてはならない。

《コミュニケーション情報学科教官
小林　伸吉 》

目次
巻頭言　　小林伸吉　・・・・　1
新任の先生方の「私の薦める一冊」　・・・・　2
私の推す一冊　・・・・　4
図書館便り　・・・・１０
お知らせ　・・・・１１

<新任の先生方の「私の薦める一冊」>

「うらおもて人生録」
色川武大／毎日新聞社または新潮文庫

機械工学科教官　松尾　忠利

社会の価値観が画一化されると、個人の能力をはかる尺度も画一化されるために、本来、総合的な能力差はほとんどない個人、個人の間で顕著な優劣が決定され、それがゆるぎない能力判定だと思いこむことが多いようです。

さて、この「うらおもて人生録」は、非行の天才が劣等生を対象として記した教育書です。一般の教育書がそうであるように優等生になりなさいと書かれているのではありません。ここでは、著者自らの「どろどろの体験」を引き合いに出しながら、どうすれば生きていくうえでの技術をセオリーとして身につけることができるかが読者に語りかけるように綴られています。著者が語る「なにもかもうまくいくことはありえない」こと等の様々なセオリーは博打場で得られたものだから参考にならないと感じられるかもしれません。しかし、これらのセオリーを「原理原則は愛敬のないものだ」としながらも「原理原則は例外なしに誰にでも共通した部分であることを認識する」必要があると説いています。

他人と競い合うことがベースとなっている今日、「真実というものはすべて、二律背反の濃い塊になっている」からこそ、「人を愛することができないとちゃんと戦うことができない」、「おのれ一人が勝っただけでは、満足な生き方はできない」と著者は言います。「二律背反の矛盾したものを取り込む能力がスケールである」と定義したうえで、「スケール勝ちが一番である」とまとめています。

人（生物）を好きになっておいてよかったと思う著者の人生哲学が、本書の下敷きとなっています。劣等生向けと書きましたが、優等劣等にはあまりこだわらず一読してみることをお薦めします。

「電気通信概論」
電気通信技術研究会編／定価2900円／オーム社

電気工学科教官　中尾　剛

現代社会で電話を使ったことがない人はいないはずである。そして、電話のしくみに興味を持つ人も少なくないはずである。最も身近な情報通信ツールが電話であり、ダイアルするだけで、世界中どこへでも通話が可能である非常に便利なコミュニケーションツールである。近年、電話は、ただ、話をするだけの道具ではなくなり、様々な情報を伝える道具となった。そして、その進化には目をみはるものがある。また、インターネット、銀行のオンラインシステム、ＬＡＮなどコンピュータ通信を支えているのも電気通信網であり、その規模、重要性は年々大きくなっている。

本書は最も単純な電話の話から、留守番電話、コードレスホン、ＦＡＸ、公衆電話のしくみ、電話網や交換機のしくみ、通話網の品質の話、音声を効率良く伝える技術、光ファイバー、ディジタル回線ＩＳＤＮ、ポケットベル、携帯電話、衛星通信の話など、高専、大学学生向けに電気通信に関する技術を分かりやすく解説し、基本的な知識を身に付けるためにも役に立つものである。電気工学科の学生に限らず、普段なにげなしに使っている電話、ポケットベル、携帯電話などについて理解を深めてみてはどうだろうか。

「パソコン『超』仕事法」
野口悠紀雄、講談社、定価1200円

コミュニケーション情報学科教官　島村　浩

ベストセラーである。昨年11月発売のWindows95の追風に乗ったパソコン関係書籍の出版が相次ぐ中で、仕事との関連で解説してある本は数が少ない。

著者は、パソコンの機能を、ワープロ・通信・表計算に限定している。ワープロといってもワープロソフトではなくエディタである。電子メールでのやり取りを考えるとテキスト形式が便利である。ネットワークが普及した現在では、パソコンは通信機となり、ネットワークにつながっていないと役に立たない。

データベースも便利ではあるが、作る手間と個人利用の規模を考えると表計算で十分だと言い切る。
前著の「超」整理法に続き、今回パソコンへの応用として、ファイルの管理法は「ポケット一つ原則」と「時間順原則」を提案している。とにかく作ったファイルは各人の命名規則に従って、一箇所に入れておいて、必要に応じて検索する。これが安全確実な管理法と説く。確かに人間の記憶力のいい加減さと、パソコンの検索能力の素晴しさを考えると最適な方法だろう。
これからのコンピュータ時代を生きていく我々にとって非常に示唆に富んだ一冊である。

「国際協力を仕事として」
緒方貞子序/西崎真理子他著
彌生書房、1995年、定価1980円

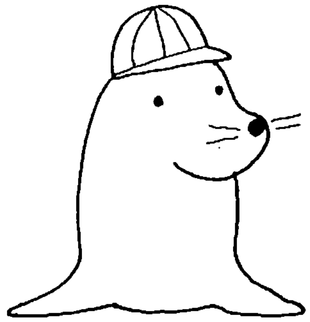
コミュニケーション情報学科教官 朝桐澄英

皆さんが本学で習得した技術や知識を、これから国際社会の中で生かしていってほしいという願いを込めて、本書を推薦したいと思います。
私たちは、世界の中でも平和で経済的にも物質的にも恵まれた日本で暮らしています。でも、国外に目を向けると、冷戦後の世界は地域紛争が多発、難民が増え、危険に晒され安定した生活の場もないまま飢餓に苦しむ人々が後を絶ちません。このような問題は、人類共通の課題といえます。同じ地球に暮らす人間として、私たちはこれらの課題に無関心でいるわけにはいかないのです。
本書は、１２人の女性たちが世界各地で国際協力に携わってきた経験を綴った手記です。「国際協力」には様々なアプローチがあること、そして夢と理想だけでは勤まらない厳しい現実があることを、１２人が自らの体験から語っています。
高い教育と技術を身につけた私たちは、国境を超えた視点で世界に貢献する責任があり、国際社会からも求められているということが実感させられます。
私は、本書を若い皆さんへのエールにしたいと思います。
Be Curious, Be Flexible, and Believe Yourself.

「'95改訂新版　全国古本屋地図」
日本古書通信社、362ページ、1800円

一般教科教官　川崎　俊郎

「私の推す一冊」といわれて、はたと困ってしまった。好きな本、面白かった本（これには単なる娯楽としての読書から知的刺激を受けたものまで含む）は結構あるが、他人様にお薦めできる本、それも一冊となるとなかなか難しい。人にはそれぞれ読書のやり方があって、どんなにいい本でも、それが必要のない人にとっては、単なる紙の固まりにしかすぎないこともある。個人的には、その人に必要な本は、必要な時、必要な場所で、必ず手に入るものだと考えている。
とはいっても、いろいろな本（漫画や雑誌でも結構）に出会う機会が多いことにこしたことはない。一冊の本によって、それまで知らなかった世界と遭遇することは、なかなか楽しいものである。古書店とはそういう本との出会いの機会を広げてくれる場である。そこでは雑然と古書がならび、普通の書店ではみることのできない書籍が入手できるのである。そしてこの本には、そうした古書店が、北は北海道から南は沖縄までの約140市町村にある約2700店舗が、一部は地図つきで、またすべてに住所と郵便番号付きで紹介されている。
というわけで、古いけれども新しい、そんな本との出会いの一助になればと、この本をお薦めします。
追記：すぐに見たいという方、声をかけていただければ、よろこんでお見せします。



＜私の推す一冊＞

「神々の指紋」（上）（下）
グラハム・ハンコック著、大地舜訳

機械工学科１年　菅野　禎司

不思議なロマンに満ちあふれた本です。
1513年につくられた、ピリ・レイスの地図の話からはじまります。これは南極大陸の、ある地方の氷に覆われていない時の正確な地図です。しかし南極大陸が発見されたのは1818年。氷原の下の地形が分かったのは1949年。南極が氷におおわれたのは、6000年以上前。どうしてこんな地図が1513年に？
実はレイスはこの地図をつくったのではなく、他の地図を写したのでした。
そして、レイスの地図の元になった地図の他にも、6000～15000年前にしか描けるはずのない南極や、南米の地図が残っているというのです。
一体誰がこの地図を作ったのでしょうか？
ペルーや各地に共通して残る、ビラコチャという、文明をもたらしてくれたとされる偉人の物語があります。この神話にちかい話と不思議な地図は関係があるのでしょうか。
なぞはつきませんが、この本はこれらの考古学的な疑問にまじめに取り組んだ本です。
我々のたかだか5000年の文明以前にもしかしたら高度な文明が存在していたかもしれない、などと考えるだけでも、不思議な感じがします。そんな不思議をたくさんみせてくれるこの本をぼくは推薦します。

「スリーパーズ（sleepers）」
ロレンゾ・カルカテラ著　徳間書店

電気工学科１年　長谷川　匠

私が推す一冊は、ロレンゾ・カルカテラ氏がかいた「スリーパーズ（sleepers）」で徳間書店から出版されたものだ。
この本は実話で、スラム街育ちの４人の少年の生活環境と、それによる友情の深まりから書き出される。
ジョンは、心臓の病気と華奢な体つきがあいまって、いかにもひ弱そうな少年だった。トミーは、ジョンと対照的に見えるが、優しい性格、マイケルは、四人の中では最年長で、正義感の強い少年だった。そして、「私」、ロレンゾ・カルカテラ、が上で述べた四人である。
四人は、いたずら好きで、多少の盗みもしたが、ある日、いたずらが過ぎて、人を一人殺してしまった。四人は、悪名高いウィルスキン少年院に入れられてしまう。少年院での生活はひどいもので、看守に逆らえば、腰にぶらさげてある警棒がすぐとんでくる状態だった。夜になれば、看守に毎晩殴られ、恥辱の限りの拷問と虐待を受けた。生きているのがやっとで、死にたいと思うことがしばしばあったが、彼ら四人は、友情の絆だけを頼りに生き延びた。少年院を出てからも、彼らの精神の深い傷が消えることはなかった。
ウィルスキン少年院にいたことが引き金となって、ジョンとトミーは、名の知れた殺し屋になった。しかし、マイケルは検事に、「私」は新聞記者になった。
ある日、ジョンたちは、さんざん世話になった看守に会い、殺してしまう。マイケルは、彼らを助けると同時に、ウィルスキン少年院でのことを世間に暴露するという計画をつくった。計画はうまくいったが、ジョンたちを助けるため裁判に負けたマイケルは検事を辞めることになってしまう。
それから数日後、ジョンは泥酔により死亡。トミーは、狙撃され死亡。マイケルと「私」は未だ健在である。
映画化決定

「責任者、出てこい」

物質工学科１年　小野　弘恵

私が推薦する本は、ＰＨＰ研究所が出版している「責任者、出てこい」で、著者は屋山太郎です。この本の内容は、私には難しいのですが、よくニュースで聞く言葉について書かれています。例を挙げると「憲法改正ーアホ、バカ、マヌケの憲法学者は引っ込め」のように著作が今の日本やその問題「日本をダメにする３４の非常識」について遠慮などはかけらもみせず、著者の思っていることがズバスバと書かれています。そんなところがこ

の本の笑えて、すっきりして、おもしろいところです。この本を読むと、今までニュースで聞いてきた、よくわからない言葉の意味がなんとなくわかってきました。そして今の日本に対しての見方も少し、何かが変わりました。今、大人がしている事、そして今までしてきた悪い事。それが日本におよぼした影響。この本を読んでいると著者の怒りが、怒りの理由がよくわかります。1つの問題について、きちんと説明も入っているので、ある程度は難しくても言葉の意味は理解できます。

すっきりとした、読みごたえのある本なので皆さんぜひ一度読んでみて下さい。

「日本の若者・アメリカの若者”高校生の意識と行動”」
千石保・ロイズ・J・デビッツ著
日本放送出版協会発行

建設環境工学科1年　宗形　和洋

私の推す一冊は、日本放送出版協会発行、千石保・ロイズ・J・デビッツ著の「日本の若者・アメリカの若者”高校生の意識と行動”」という本である。

この本で印象に残っているところは、アメリカの高校生の「お金」に対する考え方である。アメリカの高校生も日本の高校生と同じように、親から小遣いをもらっている。しかし、アメリカの高校生は、親からもらったお金は、少なくとも、親がしていけないということには使ってはならないと思っているという。

この考え方は、日本の高校生とは正反対である。日本の高校生は、何も考えずに好き勝手に使っている。

このように、驚くことがたくさん載っている。

これからの社会では、狭い視野ではなく、広い視野を持って生きていかなければならない。広い視野を持ちたいなら、ぜひこの本を手にしてほしい。きっと、「ものの考え方」が変わるはずである。

「続ぼくを探しに　ビッグ・オーとの出会い」
シェル・シルヴァスタイン作 講談社

コミュニケーション情報学科1年　渡邉景子

まず作者について紹介します。シルヴァスタインはシカゴで生まれ中西部の小さな町で育ったアメリカ人で、詩と散文を書き、絵や漫画を描き、歌を作ってギターを弾く、いわゆる芸術家です。

この本は作者の絵が最大の魅力であり、絵も文章も単純このうえない風情を示しています。すべてうまくいかない駄目な人のためにも、駄目でない人のためにも書いた…というようなことが訳者あとがきでは述べられています。

題の通り「欠落したかけら」が「ビッグ・オー」に出会うという話です。

とても感動します。是非、読んでみて下さい。（注・絵本です。）

かけらはひとりで坐っていた
誰かがやってきて
どこかへ連れていってくれないかと
待ちながら

「よくわかる旋盤作業法」
神田力也著

機械工学科2年　佐藤　直樹

旋盤は、工作機械のうちで最も一般的なもので、機械技術に関係のない人たちでも「センバン」という言葉を知っている人はずいぶんいる。旋盤は一台あれば、ずいぶんいろいろな作業をすることができるので、たいへん便利な機械でもある。従って、どんな機械工場でも、旋盤の一台や二台は必ず見つけることができるほど、多く使われている。

このようなわけで、学校や訓練所における機械実習でも、旋盤作業に重点が置かれており、機械工ならだれでも一応は使うことができるので、旋盤は非常に身近に感じられる機械である。

この本は、日常旋盤を使用している人のために各種旋盤の構造やその作業の全般について解説されている。また、切除の知識、新しい工具材料について説明されている。

「原子爆弾の誕生」（上下巻）
リチャード・ローズ著

電気工学科２年　廣川　出海

この本の題名をきいて、少し危ない本かと思うかもしれない。しかし、この本の内容は原子の構造の発見、放射能物質の研究、人工元素の発明など、物理の授業で教わる事柄の発見当時のエピソードから始まり、放射能物質の研究からウランの利用に至るまで幅広い。

ウランから爆弾、もしくは発電できると考えた人たちの中には、それを実現するために実験したり、論理計算したり、あまりにも危険だから特許をとり、国に公表しないでくれと言った人もいた。

このあたりから戦争になり、アメリカとイギリスは原子爆弾の開発に入り、ドイツが先に完成しないように必死に開発した科学者の話や、その科学者達の生活に大変苦労した話が載っている。本では、実際の開発の経過と科学者のその時の心理が書かれていて状況が読みとり易い。読みごたえのある分厚い本だが、一読の価値がある本である。

「一歩身近なサイエンス」
Quark 編　講談社ブルーバックス

工業化学科２年　村山　英司

科学にとっては大事で面白いかもしれないが、知っていたって毎日の暮らしには関係ないような話はたくさんあります。たとえば相対性理論とか宇宙の世界とかがそうです。

この本は、コーヒーが頭によい、カレーに薬理効果がある、といった暮らしにまつわるおもしろくてタメになる話がたくさん書いてあります。

先ほどの「コーヒーが頭によい」というのは、コーヒーの持つ能力の一つで、実はコーヒーには「七つの超能力」があるという話です。この「七つの超能力」というのは、①居眠り防止、②勉強能率アップ、③ダイエット効果、④スポーツ持久力を高める、⑤二日酔い防止と解消、⑥口臭の予防、⑦ガン、動脈硬化の抑制で、②は東京大学で、ある計算テストをコーヒーを飲ませて行ったら計算能力がアップしたという話。③はカフェインが体のエネルギー消費量を約10%アップし、カロリー消費が一割多くなるという話。⑤は二日酔いの原因であるアセトアルデヒドをカフェインが肝機能を活発にすることによって分解するという話。⑥は、コーヒーにミルクやクリームさえ入れなければ、口臭を抑制する効果（ニンニクの臭いを消す効果が高い）があるという話です。

こういった食べ物や、くつ下・水着などといった服、はたまた人間関係などをテーマにした話が10テーマほど書かれています。

この本を読むと、自分の生活様式が少しだけ変わるかもしれません。

「空想科学読本」

建設環境工学科２年　初瀬　雅樹

「空想科学読本」。昔、テレビの中で、わたしたちが心おどらせたアニメヒーローの必殺技や、その体型、体重にいたるまで科学的に検証した本です。表向きはこのようなことをいっている本ではありますが、はたから見ると原作者のあげあしをとっているとしか思えない本です。

例えば、ガメラの体の密度は酸素なみだとか、仮面ライダーのベルトでは電気ストーブを１秒つけるのがやっとだとか、ウルトラマンが空を飛ぶと額から上が吹き飛ぶだとか、とんでもないことばかりが書いてあります。

興味を持った方は立ち読みでもしてやって下さい。

「ライ麦畑でつかまえて」
Ｊ・Ｄ・サリンジャー著　野崎　孝訳

コミュニケーション情報学科２年 岩本良子

この本のタイトルを誰もが一度は耳にしたことがあるのではないでしょうか。近代のアメリカ文学の傑作品として、アメリカ国内はもちろんのこと、全世界中で今なお読み続けられているこの作品は、少年ホールデンを通して子供の夢と大人の作りあげた現実との衝突を書きつづっています。人々のとる行動、自分にかけられた言葉のすべてを否定し、その奥に含まれた相手が本当に思っていること

を探ろうとしている主人公。国境や民族、時代に関係なく子供たちは自分の夢を阻む現実の壁を破ろうとすることをよく表している言葉遣い。ちょうど今、この時期にさしかかろうとしている私たちには、大人たちには正気の沙汰とは思えないような主人公ホールデンの行動や考えに共感を覚えるものが多いのではないかと思います。人生のうち二度とはやってこないこの時期に一度読んでみてはいかがでしょうか。この一読があなたに新しい人生観を与えてくれることと思います。

「空飛ぶ馬」
　北村薫著　東京創元社

機械工学科３年　清水　正彦

この本は推理小説ですが、特に推理小説＝殺人事件と思っている人に読んでほしいです。何故？それは、この作品では殺人はおこらないからです。では何を推理するのか？それは別に何てことのない日常のこと。例えば、夢である人物が現れて切腹するのを見てしまう。その後その人物は実在した歴史上の人物で、やっぱり切腹していたことが明らかになる。こんな偶然はあるだろうか。そんなことや、喫茶店で見かけた女の子が紅茶に砂糖を七杯、八杯と入れている。さすがにこの量は不自然だ。何故そんなに砂糖を入れるのか。などという、密室殺人や、鉄壁のアリバイくずしとは一味違った、新しいタイプの推理小説に仕上がっています。

また、推理をする役の人物が主人公ではなく、主人公の知人という設定にしたのも作者のうまいところで、ふつう主人公に探偵役を設定したときにでる不自然さ、非現実性を解消しています。

ぼくが一番この作品の中で気に入っているのは、話の外し方です。複雑な推理の途中でうまい具合に話をゆるめてくれます。

この作品はシリーズになっていますが、まずこの「空飛ぶ馬」を読んでみて下さい。推理小説に対する見方が変わります。

「頭の体操」各巻
　多湖　輝著　　光文社

電気工学科３年　渡辺　剛史

問　生卵（鶏の）を、かたいコンクリートの上で２［ｍ］落下させて、割れないようにするにはどうすればよいか。ただし、受け止めたり、その他の道具は使用不可。

いきなり問題ですいません。
読んでいるあなたには解けたでしょうか？
というわけで有名な「頭の体操」の紹介です。
結構知らない人が多いみたいですね。

ちなみに、問の答えは、「コンクリートの３［ｍ］上から落下させればよい。そうすれば２［ｍ］落ちた時点で割れてないから。」‥‥石投げないで下さいね。

まぁ、最近の偏差値教育で、型にはまった教育を受けてきて、自由な発想を抑制されてきた我々には、このようないっちゃっているような発想も大切なのではないでしょうか。
それではもう１問。さっきより簡単ですから。

問　マッチ棒を６本使って、一辺の長さがマッチ棒と等しい正三角形を４つ作るにはどうすれば良いか。折っても無駄。

答えは本屋さんで立ち読みしましょう。
光文社から出ています。

「三国志」

工業化学科３年　江尻　昌弘

僕のお勧めの本は、今夢中になって読んでいる「三国志」です。お勧めと言っても、字だらけの本をまともに読んだのはこれが初めてですが、はっきり言って感動があると思います（個人差かなりあり）。まあ一つの難点をあげれば、読めない難しい漢字がかなり多くあるということです。もっとも、そんなのは字の感覚でだいたいこんなものかなと自分なりに理解してしまえばいいと思います。

三国志はとにかくスケールがでかく、素晴らしい人物が多いところが良いです。内容を説明しようとすると千枚の千分の一ぐらいかかってしまいそうなので、もしも暇な方は一度読んでみるといいでしょう。が、しかし「三国志」は中国の歴史書なので、字で説明されても状況や風景が想像しにくい面もある

ので、まずはマンガの三国志。「そんなの買ってられるか」という人でも「龍狼伝」というマンガなら「三国志」の知識もある程度はつくので、どちらかを読んでから「三国志」の小説を読めば、より一層楽しめると思っている今日この頃です。

「ピアニストという蛮族がいる」
中村紘子著　文春文庫

土木工学科３年　藤田　理恵

ピアニスト中村紘子さんの書いたピアニストのエピソードをたくさん含む随筆である。
ピアノや音楽に興味のある人にはお勧めの一冊です。絶対に損はさせません。
とにかくいままで私の知らなかったエピソードがいたるところにちりばめてあります。
いくつか紹介しましょう。
ドミソドミを右手の人差し指、中指、薬指、小指、親指（親指は高いミです）で同時にならすことのできた巨人ラフマニノフの話。
ジュリアード音楽院のピアノ科の優秀な学生がピアノの家庭教師として、ある家にいったときのこと。生徒は６歳の女の子で、そのおじいさんと父親がレッスンをきくという。
別にどうということもない光景だが、そのおじいさんと父親というのが、トスカニーニとホロヴィッツだったという恐ろしい話。
楽しいエピソードばかりではありません。日本で最初のピアニスト幸田延（のぶ）、そしてその弟子久野久の、日本のピアノ草創期であるが故の悲劇。涙なくしては読めない話です。
とにかくすごい話でいっぱいのこの本をお勧めします。

「クラインの壷」　岡嶋二人著

コミュニケーション情報学科３年
大和田　輝枝

本というのは、人に勧められて読むものではないと私は思う。ときどき、急に本が読みたくなって、書店や図書館で本を漁る。これが最も良い読書のタイミングなのではないだろうか。そんなとき、ふと思い出してみて欲しいのがこの本である。あくまで、この本を探しに書店に行ったりしてはいけない。なにか本が読みたいなあ、と思った時が、読書のタイミングなのである。
「クラインの壷」は、ミステリー小説である。しかし、この本の中では殺人犯や名探偵は現れない。ＳＦのミステリー小説である。数学に詳しい方ならば、位相幾何学の本かと思われるかもしれない。実際は、この小説はＳＦミステリーの本当の怖さを味わえる一冊なのだが。
ＳＦの本当の怖さとは何か？　この本を読んでいると、「こんな事がありうるのだろうか」とたびたび思うことがある。しかし、心のどこかでは「いや、ありうるかもしれない」と思ってもいるのだ。ＳＦミステリーの本当の怖さというのは、その可能性だと思う。こんな事が起こりうるのかと思うと、この本は本当に怖い一冊となる。そして「クラインの壷」はそう思わせてくれる貴重な一冊なのだ。

「さるのこしかけ」
さくらももこ著　集英社

機械工学科４年　早川　幸恵

この本の著者は皆さんもよく御存知のアニメ「ちびまるこちゃん」の作者であるさくらももこさんである。大ヒットした「もものかんづめ」に続くエッセイの第２弾である（このあと、「たいのおかしら」と続く）。
内容はなんてことはない著者であるさくらももこさんの体験談である。
感想としては、「面白かった」であろう。文章は読みやすいし、まず深く考えなくてよい。「ハハハッ」と笑える、そんな本である。
私にこの本を薦めて下さった方の言葉を借りれば、「暇つぶしに読むのには、ピッタリ」である。サイズもショルダーバッグにはいる大きさなので、持ち歩いて、暇なときちょっと開いてみるのはいかがだろうか。イラストだけでも楽しめるものがある（ただし読みながら私のように「フフフッ」と笑いをこぼすのは大変不気味なので控えた方がよい）。
この本を読んで、何を得られるのかと問われれば、定かではないと答えるしかない。

「玩具修理者」
　小林泰三著　角川書店刊

電気工学科４年　櫛田　麻衣

　この作品中の目玉である死体解体場面は、恰も自分が死人にメスを入れているような錯覚に陥ってしまう程のインパクトを持っています。
　死んだ弟、猫、壊れた玩具。
　何でも直してしまう奇妙な玩具修理者。
　登場人物の「彼女」が、語っていく過去は一体何処までが真実なのか？
　実際、本当に短い小説なのに、読み終えた時の充足感はかなり有ります。ただ構成に対し、展開の早さ（死体の腐敗速度など）が気になります。枚数制限のきつい短編小説なので仕方ないのですが。
　多少気になる部分を差し引いてもかなり楽しめる作品であることは保証します。皆さんも一度手に取ってみてはいかがでしょうか。

「啄木全集」　筑摩書房

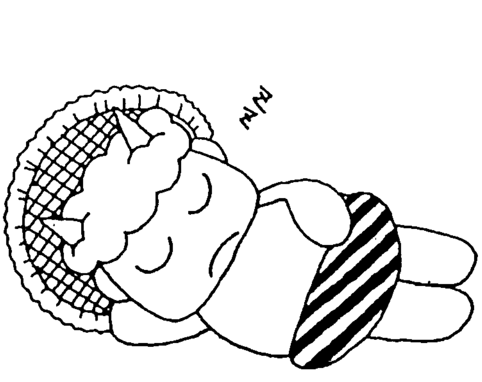
工業化学科４年　中澤　歩

　私が推薦する本は、筑摩書房「啄木全集」の五、六巻に収録されている石川啄木の日記です。しかし、これはある程度、啄木について興味や予備知識がないと、読む意味のない本かも知れません。
　この日記は、例えば一部を抜き出してみると、「--教育それ自身は本来空虚である--（中略）--芸術の内容の代わりに、教ふる人の人格と結びついて、初めて充実し、生命を得、効果のある真の教育と成る。--（中略）教育は芸術の支配者ではなく、寧ろ芸術の中の一含蓄である。--」（明治三十九年三月八日より）というように、さすが日記だけあって、作者の思想や社会に対する考え、そして彼自身の作品についてなどが率直に細々と書き込まれており、啄木という人物について書かれた全ての本の大本になっていると思われるものです。この日記を読んだ後に啄木の作品を読めば、味わいが増すこと間違いなしです。
　啄木に限らず、少し昔の人の作品に触れた時、いいなぁと感じることができたら、その人の日記を読んだり、どんな一生を送ったのか調べてみてはどうでしょうか。その作品の違う面をかい間見ることができて面白いですよ。

「さびしい王様」
　　北 杜夫著、新潮出版社

土木工学科４年　大平 育男

　ファンタジー。この言葉が定着してから久しいような気がします。ですが、今、巷間にあふれるファンタジーというのは、本当にファンタジーでしょうか。剣と魔法で勇者が悪魔を倒すのも、たしかにファンタジーです。
　ですが、それはファンタジーの中の一つのジャンル、ヒロイックファンタジーです。ファンタジーの訳は「奔放な空想」。昨今、その意味で、真にファンタジックな本もたくさん発表されています。ですが、私が今回紹介するのは、日本のファンタジーの中でも、中興期の作品、「さびしい王様」です。
　「十歳から百歳までの＜こども＞のための童話、十歳から百歳までの＜おとな＞のための童話！」これは本書カバー裏に書かれた文句です。作者の北杜夫は自分の医師としての経験から、「ドクトルまんぼう」シリーズを書いて一躍有名になりました。この「さびしい王様」は、「まんぼう」の中にある、北氏の作品に共通した、ファンタジックな文体の総体と思います。くせのある文章の中に、「奔放な空想」を感じる事ができると思います。



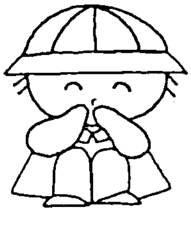
図書館便り

☆学年学科別図書帯出冊数（平成７年４月～平成８年３月）

学　年	1年	2年	3年	4年	5年	合　計
機械工学科	１２８	２１	４４９	３５８	４８２	１４３８
電気工学科	１３９	１４３	３７６	５１２	３６９	１５３９
工業化学科	２９２	２７４	９４２	９２０	２５５	２６８３
建設環境工学科	８９					９５８
土木工学科		６８	４２２	１９５	１８４	
コミ情報科	２７３	２６５				５３８
合　計	９２１	７７１	２１８９	１９８５	１２９０	７１５６

図書貸し出し冊数ベスト１０（平成７年４月～平成８年３月）［学年は昨年度のもの］

１	諏訪　里子	（工業化学科４年）	１００冊
２	服部　直明	（工業化学科２年）	９９冊
３	守岡　宗典	（機械工学科５年）	９２冊
４	中澤　歩	（工業化学科３年）	７３冊
５	駒木根　文仁	（電気工学科４年）	６６冊
６	阿部　義弘	（機械工学科５年）	６２冊
〃	遠藤　健太郎	（電気工学科２年）	６２冊
８	西村　睦子	（工業化学科４年）	６１冊
９	椎名　譲子	（工業化学科３年）	６０冊
１０	橋本　美帆	（工業化学科３年）	５４冊



お知らせ

臨時開館について

○ 開館期間　　8月19（月）～夏期休業終了日まで。

ただし、土・日曜日は閉館とします。

○ 開館時間　　午前の部　　8時30分～12時00分まで。

午後の部　13時00分～17時00分まで。

※　夏季休業期間中は「臨時開館日」を除き館内所蔵図書の点検及び整理のため閉館します。

特別貸出について

○貸出手続き　・・・・　7月11日（木）～7月24日（水）

○貸出限度冊数　・・・　5冊まで

○貸出期間　・・・・　7月25日（木）～夏期休業終了日

卒業研究生特別貸出について

○卒業研究生は、所定の手続きを行えば、別枠として5冊の貸出が認められます。

その他

○購入希望図書がありましたら、最寄りの図書委員を通じて、あるいは、直接図書係に申し込んで下さい。

感想文募集のお知らせ

今年度も昨年度に続き、学生の皆さんに、より読書に親しんで頂くための一環として「読書感想文コンクール」を下記の要領で実施いたします。
ふるって参加して下さい。

記

1．形　式　　１６００字程度の読書感想文
手書きまたはワープロ文書。
（フロッピー提出も認めますが、
ＤＯＳ文書であることとします。）

2．募集部門　　以下の二部門で募集します。

・低学年の部（１～３年生対象）

・高学年の部（４、５年生対象）

3．提出締切　　平成８年　１１月末日

4．賞　品　　低学年、高学年の部とも１～３位まで図書券が贈られます。

5．その他　　・感想文は図書館事務室に提出すること。

・それぞれの部門の第１位の感想文は、次回発行のビブリアに掲載する予定です。

・応募は一人一編までとします。

平成８年度図書委員会

図書館長　　　　　　　　　　井上　和人（工業化学科）
副館長　（ビブリア担当）　大槻　正伸（電気工学科）

委員	八木　康雄（機械工学科）	村田　進（電気工学科）
	小林　靖明（物質工学科）	高橋　邦雄（建設環境工学科）
	布施　雅彦（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ情報学科）	大森　房子（一般教科）
	赤松　一良（庶務課長）	黒田　祐一（図書係長）
	大谷　敦子（司書）	薄井　久美子（図書係）

学生図書委員

５Ｍ	森　俊介	５Ｅ	＊山田　寛章	５Ｃ	酒井　友子	５土	大和田義光
			＊村上　俊幸		吉田　寿江		瀬戸　隆寿
４Ｍ	早川　幸恵	４Ｅ	大高　裕幸	４Ｃ	椎名　讓子	４土	澁谷　健二
	蛭田　貴弘		小松　敦史		＊中澤　歩		
３Ｍ	清水　正彦	３Ｅ	渡辺　純一	３Ｃ	江尻　昌弘	３土	藤田　理恵
	渡邉　信也		渡辺　剛史		佐竹　慎人		櫛田　澄恵
３コミ	＊大島　優佳						
	＊小関　祥子						
２Ｍ	小松　努	２Ｅ	＊斎藤　優弥	２Ｃ	佐久間　武志	２建	磯上　幹夫
	佐藤　直樹		廣川　出海		村山　英司		
２コミ	坂本　典子						
	鯨岡　玲子						
１Ｍ	＊菅野　禎司	１Ｅ	大谷　正幸	１物	遠藤　美緒	１建	宗形　和洋
	＊永井　善将		斎藤　泉		吉田　万里子		渡辺　真規子
１コミ	森田　千絵						
	山岸　幸						

（＊はビブリア編集委員）

編集後記

夜の９時ごろ読み始めた本があまりに面白くて、とうとう終わりまで一気に読んでしまって、はっと気付いたら夜明けだった、というようなことはありませんか。

私がある一冊の本を読んだ時のこと。不思議なことが起こりました。
ちょうど本の中での時間が夜の８時でした。現実の世界でも夜の８時。
はじめは偶然だなあ、と思って読み進めていくと、本の中の時間の進行と現実の時間の進行が最後まで全く一致して、物語の終結が朝の５時、そして私が本を読み終えたのが朝の５時。この作家はそれを計算して書いたとしか考えられません。作家というのはすごいものだと改めて思いました。

さて、明日の仕事を気にせずに、安心して朝まで本に夢中になれる夏休み。いいものですね。

本年度も読書感想文コンクールを実施します。夏休みに夢中になれる本に出会えたらそれをもとにして、応募してはいかがでしょうか？

よい夏休みをお過ごし下さい。